

1. 自己評価及び外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホスピタリティに基づく事業所と地域との関係性を重視した理念を掲げ、毎朝礼時に理念やクレドの読み合わせを行い、確認するとともに理念の意識付けを行っている。	法人理念の下、事業所独自の理念を掲げ毎朝職員が唱和し、確認している。おもてなしの表れが、実際の「立ち上がり立ち止まりの挨拶」が実践されており、理念が職員に浸透していることが確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	散歩や買い物の際に地域の方に挨拶をしたり、野菜の差し入れを頂いたりする。また、地域の季節の祭りで子供獅子舞(神楽保存会)に出向いてもらい交流を図っている。	オレンジカフェ、福祉ネットワーク会議に施設長自ら出席し、地域の方々に認知症の理解を深める取り組みが行われている。又、地区の行事(どんど焼き、あやめ祭り等)にも積極的に参加し、地域に溶け込んでいる。	現在も地域の方々に認知症について理解していただくよう活動しているが、施設長だけでなく、職員も地域に出で行けるような取り組みを期待し、啓発の拠点になっていくことを望む。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ふくしネットワーク会議に施設長が参加し、地域の関係者と意見を交わしている。また、オレンジカフェについて当番を決め順番に担当している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	「職員が業務に一生懸命になってしまうと、御利用者様も手持ち無沙汰になってしまう。音楽をかけるなどしてはどうか?」とご意見があり、レク活動以外においても音楽をかけ、手持ち無沙汰な時間を減らせるよう取り組んでいる。	代理区长 市役所 地域包括 民生委員 家族代表 安心相談員の参加の他 消防分署長 の参加もあり、新たな取り組みのアドバイスをいただき有意義な会議が行われていることが会議録から確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議で市町村担当者に同席して頂いており、水分補給に関わる取り組み(1500mlを基準とした水分摂取や、お茶だけでなくコーヒーやジュースなど選んで楽しみながら飲んで頂いている)や身嗜み・マナーに関わる取り組みを伝えている。	運営推進会議に市町村担当者が出席しており、事業所の細かな情報を密に共有している。特に水分補給やオムツゼロの取り組み、クレドに関すること等理解を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関わる勉強会を年間3回予定し、現在2回行っており知識等の向上に努めている。また、夜間の防犯以外で玄関の施錠はしておらず、散歩等外出の希望があれば職員が付き添い外出している。現在身体拘束対象はおらず、毎月の会議内で委員会を開催し身体拘束者ゼロを継続するよう検討している。	現在身体拘束はしておらず、年3回の勉強会をふまえ、改めて身体拘束の考え方、職員の意識改革につなげている。「利用者の行動に対し、職員が困ることに対応していくのかを家族と共に常に考、実践している。」との話が聞けた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関わる勉強会を年間3回予定し、現在2回行っており知識等の向上に努めている。また、人事考課制度内に言葉遣いや笑顔に関わる項目があり、それを元にした評価・指導をしている。他、施設長は毎月本部での会議で教養(テスト)を受けたり、本部担当者直通の連絡先(相談窓口)も設置している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	現在制度を利用されている方はいらっしゃらないが、年間計画の中で成年後見制度に関わる勉強会を実施している。また、制度に関わる相談があれば情報提供し、職員とも共有している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時に料金やケアに関わる説明をし、起こりえるリスクやその支援についても説明し同意を得ている。 また、ご利用中であっても相談があれば都度お話し、ご理解頂けるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受け付け担当および苦情解決責任者を定めている。また、家族会の開催やアンケートを行うことで、意見を頂戴できるようにしている。他、毎月ご本人様のご様子を御家族様へご連絡票という形でお伝えし、御家族様が状態を理解した上で意見・要望が言えるようにしている。	日ごろから家族との意見交換はされており、毎月利用者の情報を詳細に担当が書面で報告している。内容に関しての質問や要望等言いやすい工夫されている。年1回の家族会でも意見交換を行っている。具体的な要望等については迅速に対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	人事考課制度に基づく個別面談を行い、職員の話を聞く機会を設けている。また、毎日のミーティング(申し送り)や事業所の会議において意見交換を行っている。	定期的に職員と施設長が面談する機会を設けている。また、月1回の職員会 朝の申し送り他、業務中においても必要なことは常に意見交換し、迅速に対応できるようにとの施設長の努力がうかがえた。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度に基づき、実務への働き方や自己啓発などによりひとりひとりの評価を行っている。結果は給与や昇給・賞与につながっており、職員の意識向上ややりがいにつなげている。また、安全衛生に関わる勉強を年間計画で定め行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の会議における勉強会だけでなく、マナー検定受検の促しや、人事考課制度に基づく自己啓発課題の設定とその実践を勧めている。また、法人開催の新人研修や、介護福祉士取得のための支援制度も導入している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	施設長はふくしネットワーク会議に参加し、地域の関係者・同業者と関わる機会を設け、意見交換を行っている。また、リーダーの自主的な外部研修受講においては、参加できるようソフト調整を行っている。			
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居前にご本人様にお会いし、心身の状況を把握、またご入居時には生活暦・生活状態を細かく把握し御本人様の不安・希望・思いに寄り添えるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様がこれまで抱えていた思いやその経緯等を時間をかけて聴いている。また、今後御家族様としてどのように関わっていくか、思いの聞き取りや提案をし、話し合っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際は、御本人様や御家族様の現状・思いを確認し、必要なサービスを相談・提案するなど状況の改善に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事手伝いや手作業等を職員と一緒に、あるいは役割として取り組んで頂くことで、互いに協同する関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の御様子を毎月ご様子連絡票で細かくお伝えしている。また、ご面会があった場合は感謝を述べるなど、御家族様の協力あつての施設運営であることをお伝えしている。他、ご面会の度にご様子を直接お伝えするなどこまめな情報提供・共有を行い、より良い関係作りに努めている。家族会においては、御家族様にもサポートとしておやつ作りに参加して頂いた。他、御家族様のサポートを得て自宅への外泊もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	入院している旦那様にお会いするため、送迎や病院での移乗・移動を支援し、御家族様とともに実践した。また、御家族様と自宅へ外出・外泊される方がおり、楽しみとして継続できるよう日頃の体調管理の支援を行い、毎月ご様子連絡票という形で御家族様との情報提供・共有を行っている。	毎日面会に来る家族がいたり、定期的に自宅に連れて行ったり、家族の協力を得てなじみの美容院に行く方もおり、出来るだけなじみの関係が継続できるよう実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	御利用者様の状態について職員間で情報共有している。また、特定の方が孤立するなどないよう御利用者様同士の関係にも目を向けながら、円滑な交流が持てるよう職員が調整役となっている。それにより、御利用者様同士で友好関係が築け、「手伝おうか?」「私が代わりにやっておあげる」「一緒にやろう」など助け合う姿がみられている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に移られた御利用者様にお会いしたりしている。契約終了後に御家族様の相談や支援に関わった事案は今のところないが、その様な事案が出た場合は相談受付や助言等対応できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活歴や趣味・嗜好・こだわり等を御本人様あるいは御家族様から伺い、どのような生活を望んでいるかを理解するよう努め、支援に繋げている。	利用者の生活歴等情報を得ながら利用者の意向を把握しているが、特に意向の把握困難な利用者については、職員の自己満足になっていないか常に全体で確認しあいながら実践している。例として個別外出の選定について利用者の意向に合っているか常に考えているとの話を聞くことができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居時、御本人様・御家族様に生活歴・家族状況・病状の経過について細かく聞き取るようにしている。入居後も継続して行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	お一人おひとりの体調や状態の変化に注意し、できないことの支援だけでなく、できることを活かす・継続することに注目して把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日頃の御本人様との関わり、御家族様面会時での会話、事業所の会議、また担当者会議で御家族様へ出席頂くことにより、職員・御家族様で御本人様の現状に即した計画を作成している。また、医療的関わりが必要な方には、訪問看護師からも意見を頂いている。	定期的にまた利用者の状態に変化があったときに担当がモニタリングをし、家族を交えての担当者会議を実施し、各職種の意見を総合し、介護計画の作成にあたっている。また、個別ケアの計画書の実際を確認することができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りノートの活用や、実績・ケース記録を個別に付けることにより、情報の共有やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	御利用者様や御家族様の状況・要望に対して、必要な場合には法人本部とも相談するなど、可能な限り柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地区の代理区長や民生委員に運営推進会議のメンバーに加わっていただき、意見や情報を交換・頂く機会としている。また、安心相談員や傾聴ボランティア、御家族様あるいはそのお知り合いによる楽器の演奏等を受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	認知症外来を行う専門医を主治医とし、定期的な往診だけでなく、必要な受診をご家族様にも協力して頂くことで関係作りを行っている。また、入院等で別医療機関と関わる場合には、主治医からの情報提供や計画作成担当者あるいは施設長が別医療機関に向き、看護師との面談や情報提供を行っている。	入所時にかかりつけ医の希望を確認している。現在は、認知症の専門医を主治医にし、定期的な往診を行っている。認知症以外の専門医については、家族の協力を得て、受診し、事業所からの情報提供等密に行い、医療機関との連携がとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと契約を結び、定期的な看護師訪問において、毎回情報を提供、および指示・対応を仰ぐなど相談し、医療的観点での対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	いつでも退院できるよう居室空間を確保するとともに、計画作成担当者が病院を訪問し看護師と情報共有を行うことで、現状を把握し早期退院に対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	御本人様・御家族様の考え・思いを聴き、関係する看護師・主治医と情報共有しながら対応している。また、年間計画において看護師による看取りの研修会を行っている。	看取りに対する指針を家族と共有し、揺れ動く家族の思いに寄り添い、利用者として一緒にいたいという家族の思いにこたえ、事業所での宿泊も提案している。また医療機関とも密に連携を取り家族が安心と納得のいく看取りが出来る様、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設にAEDを設置している。また、防災訓練におけるAED使用の勉強会(消防署職員からの講習)を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練の実施や、地域交流を兼ねた地域の防災訓練の参加(施設長)を行っている。ただし、実際に地域の方に防災訓練の参加を依頼したところ、「忙しいから」「別にいいです」などの返答で断られてしまった経緯があり、2019年9月27日の運営推進会議において消防署の柳原分署長にも同席を依頼しており、アドバイス頂く予定。他、地域と防災協定を結んでいる。	令和元年10月12日台風19号により、事業所も避難を余儀なくされた。夜間8時半から10時の間に利用者全員を法人の協力を得ながら、の別施設に無事避難させ翌日事業所に戻ったとの話を聞くことができ、職員一丸となって災害時の対応ができたことが確認できた。今回の災害でライフジャケットの検討もしていくとの話もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人の理念であるクレドに基づき、覆面調査員・マネージャーによる毎月の抜き打ち調査を行い、接遇・マネージャーにおける言葉遣いや態度・表情について厳しいチェックが行われている。日頃のケアでの尊厳・プライバシーの保護について全職員が意識して取り組んでいる。	法人の理念の基、覆面調査員が接遇マナーを厳しくチェックし、日々のケアが常に利用者の尊厳とプライバシーが大切にされる緊張感のある現場で、利用者の安心した表情が印象的だった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お一人おひとりの状態やその時々のご様子に合わせ、促す声かけだけでなくご自分で考え決定できるような声かけも行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ある程度の1日の流れはあるが、お一人おひとりの行動・生活習慣に合わせ、その時々体調や気分を伺い尊重しながら対応することを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着たい洋服を選んでいただいたり、スカーフ等の小物なども使用しながら、御本人様の希望に応じて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日頃の食事だけでなく、定期的に出前を取ったり特別メニューを提供することで楽しみを広げている。また、お茶汲みや調理準備、下膳・洗い物など、その方ができるところに取り組んでいただいている。また、個別外出による外食も行っている。	日々の食事もバラエティーに富み、利用者の希望にも添える様配慮されている。月1で法人内のシェフにより2段のお重弁当や、出前ですしやラーメン等が振る舞われている。食事の準備等職員と行っている姿も見られた。定期的な外食も計画されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	咀嚼・嚥下力に応じて刻み食やミキサー食を提供(看護師とも相談・情報共有)している。また、同法人特養の栄養士が作成した献立を参考に調理している。日々の水分量や食事量の実績をつけ管理し、摂取量がわかるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	できる方にはご自分でやって頂くと共に、軽介助の方は仕上げ磨きや義歯洗浄、全介助の方は介助で毎食後対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	オムツゼロを実践し、重度の方でもオムツをしていない。御利用者様事に布パンツ・リハビリパンツ・パットを検討し、可能な限りトイレでの排尿・排便を促している。また、毎日排尿・排便のたびに実績をつけており、排泄の間隔を確認しながら対応している。	オムツゼロを実践しており、排泄パターンを把握し出来るだけトイレでの排泄を促している。重度になってもより人間らしい排泄行為ができるようにケアしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	下剤を常用せず、1500mlを基準とした水分摂取を促すと共にレク活動や施設内外の散歩等で体を動かすなどしてアプローチしている。また、お茶以外でもコーヒー・紅茶・ジュースなど複数の飲み物を用意し、好きなもので水分摂取ができるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	ご希望にあわせて対応している。当日に乗り気でない様子がある場合はできる限り気持ちよく入れるよう声をかけたり、その日で時間を変えたり無理強いせず翌日に入って頂くなど柔軟に対応している。	週3回午後入浴を実践している。利用者に楽しんで入っていただくため季節風呂(りんご ゆず 桜)を提供したり、ゆったり入っていただけるよう声掛けの工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝の声かけをしつつ、起きている・寝るを自由意思で行動できるようにしている。また、お一人おひとりの状態を確認し、必要な休息(お昼寝など)ができるよう促したり、あるいは誘導したりしている。夜間寝付けない場合は、話し相手になったり、少量の飲食をするなど気分転換を図りながら睡眠を促している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局からの薬に関わる調剤情報により、内容や副作用について把握できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事手伝いによる役割の取得や、趣味嗜好(例:編み物など)への取り組みの支援を行っている。また、御利用者様がやりがいを感じて下さるよう取り組み事に感謝を述べている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節の外出だけでなく、御本人様(あるいは御家族様)に行きたい場所(連れて行ってあげたい場所)を尋ね、個々に外出へお連れしている。また、施設内外の散歩やテラスでの日光浴、玄関や庭の花を見たり水やりをするなど、重度の方でも外の空気を感ぜられるよう努めている。また、地域のお祭りへ足を運んだり、普段は会えない御家族様に会うために、実際に御家族様にもご協力頂いた。	リスクを考慮しながら冬場の外出にも力を入れ、外食に出かけたり、地域のどんど焼きに参加している。近くの公園にお花見、古戦場臥竜公園等、家族の協力を得ながら出かけた。日常の買い物に職員と同行することもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	御本人様が、欲しいものなどがあり買い物を希望された場合は、御家族様に相談した上で、立て替えという形で対応している。どうしてもご自分で持ちたいという方には、御家族様了承のもと、少額を持っていただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御本人様が御家族様との電話を希望した場合は、職員が御家族様に状況を説明し、御利用者様に電話口に出て頂いている。また、毎年年賀状を職員と御利用者様が共同で作成し、送付している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月季節の張り紙や写真を飾るなどし、楽しみのある空間作りをしている。温湿度計を設置し、快適な室温等で生活できるよう確認をとっている。他、キッチンを囲むような居室配置となっており、調理の音や食事の香りを感じられるようになっている。	共用の廊下には、行事の写真や折り紙の飾りがあり、季節を感じられるよう工夫されている。又天井が高く開放感のあるフロアと日当たりの良いデッキがあり、ゆったりくつろげる空間となっている。キッチンからの音もフロア全体に響いていた。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テラス出入り口の傍にソファを設置し、自由に座ったりお昼寝ができるようにしている。また、気の合う御利用者様同士が楽しく会話できるよう座席を調整したり、幅広く交流が持てるよう棟同士を自由に行き来できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	御家族様との写真や施設での生活写真を飾るなどし、その方独自の居室となるよう工夫している。また、希望がある場合は使い慣れた物も持ち込めることを説明し、持ち込んで頂いている。他、各居室にアルバムが置いてあり、毎月更新し思い出が振り返られる状態にしている。	落ち着いた照明と木彫の壁がゆったり過ごせる雰囲気を出していた。部屋の中には、趣味のものや家族の写真、テレビ等あり、お位牌が飾ってある居室もあり、家にいた時とできるだけ同じ環境になるよう配慮されている。また、各部屋に湿度温度計が設置されており、居室環境にも気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室がわからなくならないよう、必要な方には居室入り口の名前を大きく見えるようにしている。室内物干しを座ってでもやれる物も用意し、やってくださる方が座って、あるいは車椅子でも安全に取り組めるようにしている。		